2020年12月期　第２四半期　決算説明会　質疑応答概要（１）Sodick

工作機械事業

Ｑ１．中国における顧客業種別の放電加工機の受注状況はいかがでしょうか。
また、7月以降の受注見通しや懸念材料はございますか

Ａ１．上期の受注状況は、5Gスマートフォン端末や基地局向けが中心。自動車について動きが鈍かった印象。
例年、中国は春節明けに需要が伸び、年末にかけて需要が減速する傾向だが、
今期は5G関連のほか、自動車向けの需要が回復すれば、順調に推移するものと考えている。
懸念材料としては米中の関係性が挙げられる。

Ｑ２．中国以外の地域での放電加工機の受注環境はいかがでしょうか。
ロックダウンなどによる一時的な受注悪化や現状の営業状況についてご教示ください。

Ａ２．日本とアジアは、あまり良くない状況が継続している。
欧米は従来堅調であった航空宇宙やエネルギー関係が全般的に落ちているが、医療関係は
引き続き堅調を維持している状況。
現在は出社と在宅のローテーションにて業務対応している。

Ｑ３．第2四半期のセグメント利益が、第1四半期比で増益となった要因は何でしょうか。
中国での増収効果や5G関連、半導体関連の需要増による売上構成の変化でしょうか。

Ａ３．主な要因は、中国での受注が改善したことによる生産性の向上です。
中国以外は日本・欧米・アジアでのロックダウン等の影響により受注が低迷しているため、
タイ工場の収益は厳しい状況となりましたが、中国の2工場の収益が改善しています。
また、日本や米国等の展示会中止により、販管費が減少したことも一因です。

2020年12月期　第２四半期　決算説明会　質疑応答概要（２）Sodick

産業機械事業

Q4．産業機械事業の受注状況について、第1四半期、第2四半期の受注は前年比増加しているか。増減要因は何か。

A4．第1四半期は増加しましたが、第2四半期は減少となりました。
要因は、5G関連のほか、狭ピッチコネクタ向けの受注が増加したことによるものです。

食品機械事業

Q5．昨年と比較して採算が良くないようですが、具体的にどのような案件が良くて、どのような案件が良くないのか。当事業を多岐に拡大していくことで採算性や生産性、収益性に変化は生じうるのか。

Ａ5．新規開発案件や大きなカスタマイズを要する案件などは、開発費を要する場合やラインの設置から検収に至るまでの対応コストがかかる場合もあり、採算性が良くない案件もある。
一方、リピートオーダーの案件に関しては、新規案件と比較して採算性が良くなるものと考えている。

Q6．新型コロナウイルス感染拡大による中食の高まりにより、麺需要は高まっていると思いますが、外食産業の落ち込みは大きいでしょうか？設備投資需要は今後回復が見込めるのでしょうか。

Ａ6．当社の場合は、生めんの製造装置に加え、最近は冷凍麺設備の需要も増加しています。
製麺設備需要については、全体的には大きな需要の減速は起こっていない状況です。
また、当社では、既存の生めん製造設備以外にも、即席麺分野や麺以外の分野についても注力しており、今後拡大が見込めます。

2020年12月期　第２四半期　決算説明会　質疑応答概要（3）

下期計画

Q7．下期計画の前提について、中国の5G関連の需要に一服感は見られますか。
また、中国の需要を産業別に分類してお教えください。

A7．工作機械・産業機械ともに、5G関連の需要が下期に減少するという想定はございません。
自動車関連は下期以降回復すると想定しており、それに付随する電子部品関連等は
堅調に推移すると見ています。

設備投資

Q8．通期の設備投資金額は、期初計画の45億円のまま据え置かれていますが、
投資は予定通り行われますか

A8．現状投資計画の見直しはかけていないが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、
後ろ倒しになっている投資案件もある。

新型コロナウイルス関連

Q9．御社製品の需要に関して、中国では既にコロナ後の世界にあると考えていますか。

A9．中国においては、当社では1月末から感染防止対策を徹底したため、社内での感染者は出ておらず、
現状は新型コロナウイルスの影響は収まっているという認識
ただし、中国からの輸出産業に対して今後需要が継続していくかについて危惧している。